Ⅲ　将来像の実現に向けた方策

ⅰ 観光まちづくりの地区別推進計画

◆段階的取組のイメージ

STEP 1　モデル地区の確立、仕組み・体制の確立

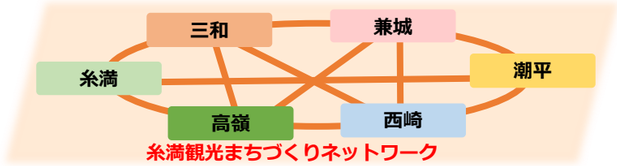
・２つのモデル地区の取組推進（米須、大里）～情報発信
・地区の実情を踏まえた実践的な体制・組織づくり

STEP 2　核となる地区での展開・市内各地域への広がり（糸満、三和、兼城、潮平、西崎、高嶺の各地域での実施）

・中核地区への波及（糸満、三和、兼城、潮平、西崎、高嶺）
・選択肢が増え魅力向上～観光街づくり事業の基盤構築

STEP 3　市全域への波及

・各地区のプログラムが立ち上がり、多様な滞在型のメニューが揃う。
・新たな地域イメージが形成。滞在交流型観光の定着。
・観光まちづくりによる経済循環が市全域に波及



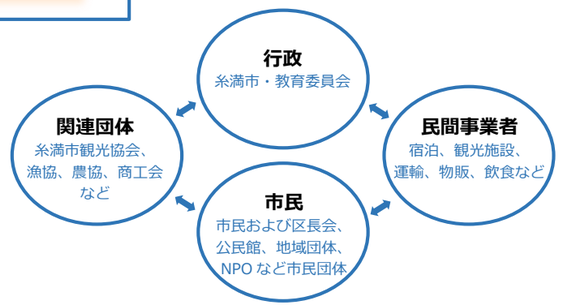
◆地区計画推進にあたっての課題

推進にあたっては、既存のまち歩き商品や体験プログラムも含む糸満の観光まちづくり商品全体の情報発信、プロモーションのあり方の検討が必要です。また、そのための戦略的、事業実践的な組織・体制づくりが肝要です。すでに取組が進む米須・大里地区では、公民館を中心とした推進体制が存在するほか、有志での活動実行部隊が、地域の状況にあわせて取組を進めています。

このことから、地区の特性や住民の日々の活動に応じた、自主的な取組を進めることと、それを支援していく人材・体制のあり方の再検討が重要になります。

ⅱ　推進体制の構築

本計画推進にあたっては、行政（糸満市・教育委員会）、関連団体（糸満市観光協会・漁協・農協・商工会など）、民間事業者（宿泊・観光施設・運輸・物販・飲食など）、市民（市民および区長会、公民館、地域団体、NPO など市民団体）など様々な主体の役割のもとで取り組みます。

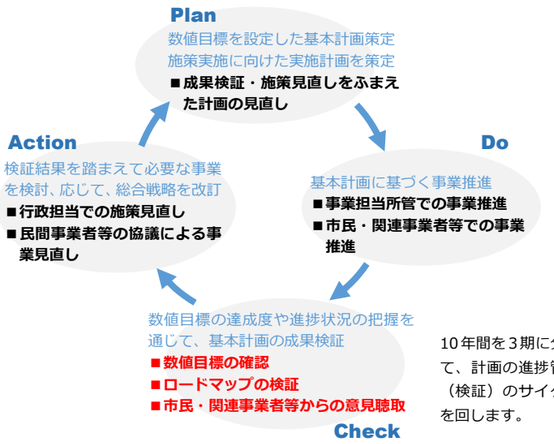


ⅲ　計画の進捗管理

本計画の将来像の実現のため、計画に基づく事業推進についての進捗管理を行います。PDCA（計画 plan-実行 do-評価 check-改善 act）サイクルのもとで、計画を実行し、それを評価・改善、そして必要に応じて計画を見直すプロセスを運用していきます。

特に、評価（Check）のプロセスにおける検証としては、定量的・定性的な評価に努め、必要に応じた計画内容の見直しを行います。

検証にあたっては、関連事業者や外部有識者を含む検証委員会（仮称）を立ち上げて実施することとします。



10年間を３期に分けて、計画の進捗管理（検証）のサイクルを回します。

糸満市観光振興基本計画　概要版

平成 28 年３月　糸満市

Ⅰ　はじめに

平成 23 年３月に策定した第４次糸満市総合計画において位置づけた観光施策の内容をふまえ、糸満市観光振興の将来像、基本方針と目標、それらを実現する施策と具体的な取り組みを体系的に位置づけるものとして、今回、糸満市観光振興基本計画を策定します。

なお、本計画の計画期間は平成 28 年度から平成 37 年度までの 10 年間とします。本市の観光をめぐる状況の変化等に対応するため、必要に応じて計画の見直しを行います。

◆本計画の位置づけ

第４次糸満市総合計画

糸満市関連分野の計画
○糸満市風景づくり計画
○糸満市都市計画マスタープラン
○沖縄振興特別推進交付金（一括交付金）
○第３次糸満市水産業振興基本計画
○糸満市文化交流・情報発信拠点整備基本計画
○糸満市戦争遺構保全・活用整備事業
など

地域の資源の保全活用や整備、滞在型観光、まるごと博物館や糸満らしい風景づくり、戦争遺構の活用や漁業のまちの歴史文化の保全活用など、地域にある価値を見出し観光振興につなげることを基軸とする方向性を踏襲

国の観光政策
○観光立国推進基本法
○沖縄振興特別措置法　など

県の観光政策
○沖縄 21 世紀ビジョン
○沖縄県観光振興基本計画（第５次）など

周辺市町の観光振興の状況
○連携・補完の可能性のある事項

伝統文化・芸術、地域産業振興や平和発信という主題を中心に、各計画で示される事業の方向性に則った計画とする。また、そのためのマーケティング・推進体制の再構築や地域産業と密接に連携した観光スタイルの創出などの施策を推進

糸満市観光に関する意向等

市民の糸満市観光に関する意向
・特定のイベント・祭事に参加が集中
・紹介したい施設はファーマーズマーケット
・観光振興は積極的な推進を希望、一方で不安もあり
・市民自らの情報発信、美化・緑化活動には関心
・民泊や体験受け入れは今後の課題
・市民ガイドやボランティア等の参画の仕組み・場づくりが必要

来訪者の糸満市観光に関する意向
・伝えたい情報と、観光客に伝わる情報にギャップの可能性
・家族友人知人からの情報での来訪が多い
・滞在時間は短く、再来訪希望を高めることが必要
・体験型観光と食事を求める
・市民や来訪者に届く情報発信が必要

観光関連事業所アンケート
・観光振興により経済と雇用の問題を解決することが求められる
・農業漁業と観光の連携への期待が高い
・祭りや伝統行事に対しては多くの事業所で支援
・公的支援策情報と従業員の人材育成・人材確保、ノウハウ支援を求める

関連計画等でのアンケート調査の結果
・旧暦文化に基づく伝統行事が市民の誇り
・清掃・美化活動は参加意向が高い
・道の駅は、県内外の観光客で来訪経験に違いあり
・糸満市の認知度は低くないが、具体的なイメージができない

糸満市観光振興基本計画

Ⅱ　糸満市観光振興基本計画体系

将来像

市民生活の魅力づくり（まちづくり）と観光誘客（観光振興）を両立させる「観光まちづくり」の推進を考えます。それは、糸満市の資源を劣化させずに、持続的に観光振興を図ることです。そのために、糸満市が誇る固有の風土（自然や歴史文化）と、それを支える人々の営み（産業、生活）を資源として保全・活用します。地域内外の人と人との結びつき、産業間のつながり、地域間のつながりを持つことで、地域全体を観光により活かす（活性化させる）取り組みを展開します。

第４次糸満市総合計画－つながりの豊かなまちーにおける観光分野での施策目標である「訪れたくなるまちづくりによる　観光産業の活発なまち」にもとづき、糸満市観光の将来像を　以下のように定めます。

«第４次糸満市総合計画»
将来像　「つながりの豊かなまち」
観光の分野　「働きのつながるまち」

«糸満市観光振興基本計画»

将来像
風土と人々の営みにふれあえる結人（ゆいんちゅ）のまち　糸満

結人（ゆいんちゅ）は、人と人の結びつきを大事にする人。観光まちづくりを通じて、人と人のつながり、農林水産業や商工業など地域産業のつながりをつくり、地域資源の連携を行うことで、訪れる方に糸満市民が誇る風土と人々の営みにふれる機会をつくりだすことを込めた将来像です。

基本方針と目標

①　地域資源の連携による魅力づくり

糸満市にある多くの地域資源を連携して、糸満ならではの魅力づくりに取り組みます。

指標	実績値	目標値
糸満市の観光客宿泊者延べ人数	280,951 人	420,000 人
内外国人	89,057 人	130,000 人
糸満市内民泊者延べ人数	3,618 人	5,400 人

②　地域産業の連携による産業振興

農林水産業、商業、工業など、従来観光業と一線を画してきた分野においても、地域の魅力的資源として観光との連携を推進することに努めます。

指標	実績値	目標値
体験プログラムやイベント参加者数	172,626 人	200,000 人

③　糸満市観光の新たな魅力づくり

これまでの、平和学習や参拝観光のイメージに加え、本市の新たな魅力づくりとその発信、受け入れ環境の改善に取り組みます。

指標	実績値	目標値
糸満市の観光に関するウェブサイト閲覧数	280,905 件	420,000 件

④　地域住民による資源価値の再認識

本市に色濃く息づく旧暦文化は、他にはない貴重な生活・歴史・文化です。これらについて、糸満市民がこれまで以上に価値を認識し、それを生活者の視点で観光客に伝える仕組みの充実に努めます。

指標	実績値	目標値
糸満市の観光ガイド登録人数	27 人	40 人

施策

施策❶　平和祈念・平和学習を深める

○沖縄戦およびその後の復興を伝える、新しい平和祈念・平和学習の場としての再構築
○沖縄戦語り部の継承と戦後復興語り部の育成　など

施策❷　歴史・生活文化の活用や自然環境の保全活用

○地域とともに推進する、生活空間にあるカー（湧泉）やウタキ（御嶽）、拝所等の保全とパワースポットとしての調査・活用
○戦跡国定公園として保全されてきた豊かな自然環境（海域・海岸域・森林域）の魅力の発信とそれを活かす自然環境保全活動のプログラム化　など

施策❸　食の魅力づくり

○漁業・水産業と飲食・小売業等の連携強化による糸満魚食の構築による多様な水産物の観光活用の推進
○漁業・水産業と農林業、飲食・小売業、地域住民等の連携強化による地域の食文化の活用（食メニューの開発や発信）　など

施策❹　宿泊滞在型観光の展開

○観光事業所の連携による滞在型プログラムの推進
○宿泊施設の魅力向上と新たな施設の誘致
○民泊の拡大・推進（受け入れ家庭の拡大、古民家の活用等）　など

施策❺　魅せる農・林・水産業の展開

○漁港や公設市場等漁業の風景の活用による新たな過ごし方提案
○農業者等との連携による農林業体験や農林産物の観光活用の推進
など

施策❻　魅せる商・工業の展開

○飲食・物販事業者による糸満市ならではの商品・サービスの構築
○工場見学や製造体験の推進、工芸品の販売・制作体験の強化（既存プログラムの強化と新たな見学・体験のプログラム化）　など

施策❼　資源の組み合わせによる体験プログラムの魅力化

○資源の組み合わせによる体験プログラムの構築（漁業と農林業、平和学習と地域の生活文化、マリンレジャーと自然観察、地域の伝統行事と食文化などのストーリー性のあるプログラム構築）
○体験プログラム検証・改善の仕組み構築　など

施策❽　マーケティングおよびプロモーション体制の構築

○観光協会を中心とした、マーケティング調査実施・体制の充実
○県外でのプロモーションの実施・関係者の連携による効果的な実施体制の構築　など

施策❾　交通・情報インフラの充実と安全安心の提供

○那覇市・那覇空港および周辺市町の観光拠点からの公共交通アクセスの向上
○公衆無線 LAN 環境の整備
○観光危機管理計画の策定　など

施策❿　スポーツツーリズム・MICE 観光等の推進

○スポーツ施設の整備活用（西崎運動公園の機能向上）によるスポーツキャンプ受け入れの推進（プロスポーツおよびアマチュアスポーツ）
○○糸満市文化・平和・観光振興センター等、市内各施設の活用による MICE の誘致　など

施策⓫　観光のユニバーサルデザイン化

○外国人観光客に対応する多言語表示等対応の推進（案内板やパンフレットなど）、食事等の対応
○障がい者や高齢者、子ども連れ客の受け入れに対応した施設改修・受け入れ対応の充実　など

施策⓬　南部広域市町との連携推進

○南部広域観光協会の活用、各市町の受け入れ体制との連携（案内情報の共有と相互発信、教育旅行やスポーツキャンプ、MICE 受け入れ等における連携協力）
○南部広域市町との補完による観光プログラムの構築　など

施策⓭　各地域での観光まちづくり体制の構築

○各地域での観光まちづくりの推進・各地域での体制づくり（米須村丸ごと生活博物館の取組、大里での取組充実、市内各地域展開）
○旧暦文化に基づく地域の伝統行事（糸満ハーレー、糸満大綱引きなど）への誘客、観光資源としての活用推進　など

施策⓮　観光人材の育成

○市民による観光受け入れの理解醸成をはかるための、地域の歴史や食文化、自然環境等を学び考える講座の実施
○地域での観光プログラム構築・運営を担うコーディネーターの育成、起業・創業の支援　など

施策⓯　観光地域としての空間形成

○市内各地区での糸満らしい雰囲気づくりの推進（風景づくり計画に基づく地域の生活空間の魅力向上とその発信）
○自然環境・景観（海・川・森）の保全推進　など